

西城山小学校 学びスタンダード

主体的・対話的で深い学びの実現

(「主体的な学び」の視点)

- 児童生徒の学習課題の把握や解決への見通し
- 動機付けや方向性の提示の工夫
- 振り返りの場面の設定
- 表現活動の促し

(「対話的な学び」の視点)

- グループ（子ども同士、教師）における話し合い・活動内容の充実
- 自分自身との対話（記録、感想、ノート 等）
- 実社会の人々からの聞き取り、フィールドワーク
- ICT の効果的な活用

(「深い学び」の視点)

- 追究の視点の明確化と課題の設定
- 資料等を基にした考察
- 課題解決に向けた選択・判断
- 論理的な説明、議論

単元など内容や時間のまとまりを見通した「めあて」を設定し、「見方・考え方」を動かせることで、事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、課題を把握してその解決に向けて構想したりする授業



そこで日々の授業の中で

- 発言を引き出し、子どもが語る場面を増やしましょう。
- 気づき、考え、感想・・・ノートやワークシート等に記述させ、今後の学習に生かせるようにしましょう。
- 教師の話をできるだけ減らし、子ども自身がしっかり学びと向き合う時間を確保しましょう。
- 15の春（中学卒業時）に希望が叶うように、「気付くまで」「できるまで」「わかるまで」の学習指導を徹底していきましょう

授業の流れ

自学（家庭学習）、既習事項、社会での実体験

授 業

- ① 学習課題の把握と解決に向けた見通し **(めあて)**
 - ② 課題解決のための追究 **(学習活動)**
 - ・ 言語活動
 - ・ 観察・実験
 - ・ 問題解決学習 等

○グループなどで対話する場面
○児童生徒が考える場面
○教師が教える場面

→教師の組み立て
 - ③ 学習評価の充実 **(まとめ)** → 基礎的・基本的技能の確実な習得
- 児童生徒の言葉から
- 言語活動を設定

- ◎ 生きて働く「知識・技能」の習得
- ◎ 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ◎ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養